

「新たな教師の学び」実現に向けた校内研修の充実

【研究の背景】

「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」等をキーワードに、子供たちの学びの改革が進む中、教師にも主体的・探究的に学び続ける姿勢が求められています。特に、現場を含むあらゆる経験を生かし、他者との対話や自身の振り返りを通じて教員同士で学び合う「協働的な教師の学び」が重要視されています。このことは、「教師の学び」と「子供の学び」が相似形であることを示しています。

【研究の目的】

本研究では、教師が主体的に研修に取り組み、新たな知識や技能を得るだけでなく、先生方のあらゆる経験を基に学び合う研修の在り方を検討します。そのために、センター所員が、「**研修講座の運営**」をテーマにして対話を行い、その考察を今後の研修運営に反映します。さらに、先生方が校内で学び合いを深められるよう、**経験と対話を基盤とした具体的な校内研修のアイデアを提案**します。

【既に多くの受講者が『共に学び合うこと』の価値を実感していた】(R6 研修講座ふりかえりから抜粋)

- 自分一人で考えることが多い現場の仕事ですが、同僚に相談することで新たな価値観に気付くことができました。(15年目)
- 先生方にご意見を伺えたことで自分の中でひらめいたことがありました。(6年目)
- 子供の実際の姿をとらえることの難しさに悩む同じ仲間がいることに気づき心強さを感じた。
- 話題にした事例や教材・教具の紹介等のグループ協議の中で、自分にはなかった考えやアイデアを聞くことができ、自分の中で改善方法を見つけることができた。(1年目)
- ほかの受講者と話をしたり自分の実践を振り返ったりする中で、自分が無意識に行っていた資料提示や机の配置なども意識することで立派な環境設定になることに気づきました。(1年目)

【プラクティカル・リフレクション・シート (PRS) を使った対話】

研修において、対話を用いることは多くあります。しかし、「実践」や「行動したこと」が対話の中心になりやすく、話し手の内面（価値観や思い）まで触れられることは多くありません。

そこで、以下のように「プラクティカル・リフレクション・シート (PRS)」と名付けた各自の実践を振り返るシートを使って、センター所員が、実験的に互いの経験を基にした「軸」や「根っこ」に触れるような対話をしました。

PRS は事前に記入し、対話の始めに配って読み合います。PRS の特徴は、自分の思いや願いをはじめ、プラス面とマイナス面を素直に自分の言葉で綴ることです。言語化することで、自分の思いの背景が整理されます。

また、「もやもや」を言葉にすることで、これまでなかなか聞けなかった同僚の考えに触れ、お互いの実践の土台となる「価値観」を新たにします。各自がPRS を持ち寄ることで、より対話が深まり、わずかな時間であっても協働的な学びにつながると考えました。

〔対話で大切にしたいこと〕

- ・話している人に関心を持ち、「経験」「思い・願い」「習慣・癖」「背景」「感情」「こだわり」「価値観」「人生観」「見方・考え方」等について、PRS をきっかけにして知りたいと思ってきく（聴く・訊く）。
- ・発言に対して否定をせず、その発言の背景をきく。
- ・自分と照らし合わせてきく。

プラクティカル・リフレクション・シート (PRS)

部 氏名

研修講座への思いや願い

受講者の姿 自分の姿
でよかったところ

受講者の姿 自分の姿で
うまくいかなかったところ

もやもや

【PRS を活用し対話を行ったセンター所員の感想】

- ・失敗までいかない「もやもや」を言語化する・開示する・共有することの重要性。その点で、今回のシートはとても画期的だったと思う。
- ・自分の視点でしか見えていないことが、ほかの人からの視点が加わると、ネガティブがポジティブな見方に変わるということを教えてもらった。
- ・考え方や捉え方は、やっぱり人それぞれなんだということを再認識。だから話し合うことが大切だとの考えに至る。
- ・自分が「もやもや」を感じた事象について、他の人が違う受け止め方をしていたことが印象的だった。また、具体的なアドバイスではなく、他の人の価値観からくる感想を聞くことで、自分の中で新たな考え方やアイデアが浮かんだ。他の人の感想を触媒にして、自分の中で探究のサイクルが回ったようなイメージ。
- ・「失敗を話しても批判されない、内容がまとまっても話していい」という雰囲気をつくるなど、心理的安全性が確保されていたことがよかった。



【PRS の活用例】

活用事例をいくつか紹介します。シートには、整った文章を書く必要はありません。箇条書きやメモで十分なので、もやもやしていたことも含め、先生方の思いに広く触れ、お互いの価値観に学び合える対話につなげていきましょう。

【活用事例1】 カリキュラム・マネジメントについて学び合う校内研修での活用
→教職員が主体となり、よりよい学校のあり方について対話する場面

『学校運営に対する思い・願い』とそれにつながる具体的な児童生徒や自身の良い姿や見つめ直したい姿、それに対する自分の中の『もやもや』を、PRS に記述して対話する。学校や児童生徒に対する多くの先生の思いを共有することで、学校づくりに役立つと考えられます。

【活用事例2】 学年会での活用 → 日々の児童生徒とのかかわりについて対話する場面

『学年運営に対する思い・願い』『学級経営に対する思い・願い』とそれを基にした実践での具体的な児童生徒や自身の良い姿や見つめ直したい姿、それに対する自分の中の『もやもや』を、PRS に記述して対話する。自分とは違った見方で学年や学級の児童生徒を捉えている他の同僚との対話を通して、その後の学年運営や学級経営に生かすことができると考えられます。

その他にも自校の学校目標や児童生徒の実態に合わせたテーマを設定してみましょう

- ・『授業づくり』 日々の授業で大切にしていることやうまくいかないこと
- ・『児童生徒同士の関係づくり』 工夫していることや難しいと感じていること
- ・『タイムマネジメント』 時間を生み出すために工夫したことや苦労したこと
- ・『地域とのつながり』 地域とつながりうまくいったことやつながることの難しさ

実はみなさん
モヤモヤしていることが
たくさんあるはず



【まとめ】

多様な経験をもつ先生方が、自分の経験や実践から得た思いを対話し、お互いの価値観に触れることで、相互理解や同僚性の向上につながります。また、自分が普段考えていないことや気付いていないことへの新たな気付きが生まれ、自分の実践を問い直す機会になります。そのことが、変化を前向きに受け止め、自分の教育にかかわる価値観を更新していく教師の姿につながるものと考えます。このような教師の姿が、子供たちの学びのロールモデルになります。

校内研修の際は、価値観に触れ合う場を意図的に設けることで、先生方の学びがより豊かになっていきます。センター所員の学びの事例を手掛かりに、今の校内研修を少しでも充実させてみませんか。今後も、センター研修と学校の学び合いをつなげる工夫をさらに研究してまいります。